

同時多発的土砂災害を想定した 国・県・市による合同演習を行いました。

～近畿地方整備局 六甲砂防事務所～

広島豪雨災害、九州北部豪雨災害など、近年、全国において多発している大規模土砂災害が六甲山系で発生した際に、関係機関が迅速かつ適切に対応できるよう危機管理能力向上を目的に、「同時多発的土砂災害を想定した合同演習(机上演習)」を実施しました。

概要

日時：平成29年12月15日(金) 13:00～17:00
 場所：兵庫県中央労働センター 大ホール、202会議室
 演習方法：実践形式を組み込んだ学習型方式
 参加機関：近畿地方整備局、六甲砂防事務所、神戸地方気象台、兵庫県、神戸市、西宮市、芦屋市、宝塚市の危機管理部局、土木部局、消防部局
 参加人数：45名
 見学機関：陸上自衛隊、兵庫県警察本部
 講師：神戸大学 沖村名誉教授

演習想定

- 災害誘因
 - ・梅雨前線に伴う大雨(昭和42年7月豪雨と同様)
- 災害現象
 - ・六甲山系(神戸・西宮・芦屋・宝塚の4市内)で、計31箇所(がけ崩れ・土石流)が同時多発的に発生
 - ・このうち、特に5箇所(土石流)を重点的にとりあげ、演習参加機関の対応を確認
- 演習内容
 - ・土砂災害発生後の初動対応から避難勧告等の解除対応までを5つのステージに分け実施
 - ・特に確認したい局面を実践形式で具体的に実施し、参加者全体でその内容を共有・確認

【演習の流れ】

1 初動対応ステージ

2 リエゾンによる情報共有対応ステージ
(実践形式)

3 現地調査、監視・観測、応急対策ステージ

4 連絡調整対応ステージ(実践形式)

5 避難勧告等の解除対応ステージ



学習型方式による演習状況



緊急点検後の連絡調整会議の状況
(実践形式)

参加者の声

- ・六甲山系では、まだ雨量強度100mm/hを経験していない。今後それに備えてどのような現象が起こるかを想定しておく必要がある、今回の演習は有意義であった。
- ・リエゾンの受け入れ方や、伝えるべき情報などを客観的に見ることができ、分かりやすく有用だった。
- ・同時多発的土砂災害が発生した場合、関係機関との連携が重要であり、平時から連絡体制を備えておくべきだと感じた。

【お問合せ先】

国土交通省 近畿地方整備局
六甲砂防事務所 調査課

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町3-13-15
TEL: 078-851-0535

